

地域の見守り活動の取組み報告

令和5年度 第3回 廿日市市保健福祉審議会
地域共生専門部会部会

廿日市市社会福祉協議会 地域福祉課
井上 美代子

住み慣れた場所で安心して
 生活できる地域づくりのために

地域で進める見守り活動



廿日市市社会福祉協議会では小地域福祉活動の取組みとして、地域での見守り活動を進めています。

日頃からお互いを知り、助けあい、支えあいができるのは顔の見える小地域(町内会等)です。

小地域での福祉活動(見守りやサロン活動等)が活発になることが、隣近所の日常的な見守りから災害時の助けあいまで、安心して暮らせる地域づくりの基盤になるといえます。

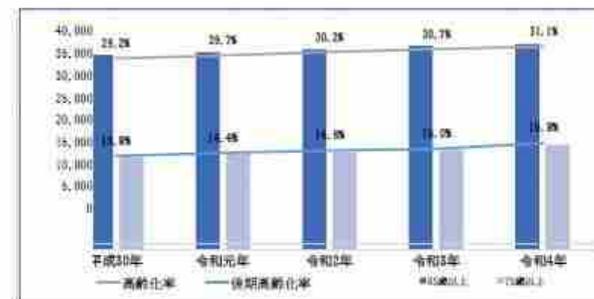
01 安心して生活できる地域って??

●廿日市市の状況はどうなっているのでしょうか

廿日市市の世帯数・人口 地域別 令和5年7月1日現在

| 地域 | 世帯数 | 人口 | 15歳未満 | 構成比 | 15~64歳 | 構成比 | 65歳以上 | 構成比 |
|-------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 廿日市市 | 53,354 | 116,067 | 15,070 | 12.98% | 64,652 | 55.70% | 36,345 | 31.31% |
| 廿日市地域 | 34,431 | 75,771 | 10,092 | 13.32% | 43,218 | 57.04% | 22,461 | 29.64% |
| 佐伯地域 | 4,591 | 8,932 | 635 | 7.11% | 4,367 | 48.89% | 3,930 | 44.00% |
| 吉和地域 | 320 | 573 | 49 | 8.55% | 224 | 39.09% | 300 | 52.36% |
| 大野地域 | 13,227 | 29,379 | 4,183 | 14.24% | 16,221 | 55.21% | 8,975 | 30.55% |
| 宮島地域 | 785 | 1,412 | 111 | 7.86% | 622 | 44.05% | 679 | 48.09% |

廿日市市の人口・高齢化率の推移



高齢者がいる世帯数と一般世帯に占める割合



廿日市市では高齢化率が30%を超え、地域によっては50%を超える地域も出てきました。

また、一世帯当たりの世帯人数が2.1人と単身世帯も増加する中、一人暮らし、二人暮らし世帯など、高齢者のみの世帯が6割を超えています。

これは、日常生活でさまざまな困りごとを抱える人が増えてきていることを意味します。

さらに、複雑化重複化した課題を抱える世帯も増えています。

そこで、支援の必要な人の異変にできるだけ早く気づくことで、地域から孤立をなくし、また、異変に対し迅速かつ効果的な支援につなげるため、日頃からお互いを知り、助けあい、支えあいができる顔の見える関係づくりが大切です。

串戸 いきいき会の取組み



きっかけ

- ・地御前ハイツ70世帯余りで高齢化が進み空き家も増えてきた
- ・孤独死など、地域の痛ましい事件、事故を防ぎたい
- ・登下校の見守りをしているが、子どもだけでなく、高齢者の見守りが必要

⇒普段からよく集まっているいきいき会(老人クラブ)の有志で活動をスタート

活動内容

- ・自宅の近所の気になる家(高齢者の一人暮らし等)の様子を日常生活の中で「気にする」
 - 庭が荒れてきていないか、カーテンの開け閉めはあるか…
- ・異変を感じたら専門職につなぐ
- ・地域のことをメンバーで情報共有(年に数回)
- ・見守りに必要な学習会
 - 地域包括支援センターの出前講座など



明石 見守り会議の取組み

きっかけ

- ・ 認知症の男性Aさんの問題行動を近所の住民が気にしている
勝手にほかの敷地に入る、畑から野菜をとる…
→どうしていいかわからない
- ・ Aさんのことが民生委員の耳に入る
- ・ 地域包括支援センターと相談する場をもった

⇒気になるのは高齢者だけではない。それぞれが気になっていることを話す場を継続的に持つ取組みを開始

活動内容

- ・ 気になる世帯の子どもの通学時間にあわせてバス停で見守り
- ・ 地域のことをメンバーで情報共有
- ・ サロン参加者で見守りの学習会

大野10区 のぞみ会の取組み

きっかけ

- ・民生委員としてコロナ禍で対面訪問ができず、また地域行事も中止になる等、民生委員活動においてもどかしさを感じていた
- ・地域の中で認知症が顕著になった人や日常生活に不安を抱える人が増えてきた
- ・地域内での孤独死があり自分ごととしてみんなが考えるようになった。

⇒いつまでも地域で暮らし続けるために、見守り活動が必要という思いに賛同した住民でのぞみ会を発足。

10区の取組みとして組織化

活動内容

- ・自主防災会と協働し地域の気になる人(要配慮者)に非常食を配布
 - 社協、包括、民生委員、区役員の連絡先を同封
- ・地域の活動や日常生活の中で見守り
- ・必要に応じて情報共有



佐伯 光が丘サロンの取り組み

きっかけ

- ・少し前までは、老人会でやっている健康体操教室が集いの場だったが、体力的に難しくなった人たちが参加しづらくなってきた
- ・昔は、町内で旅行に行ったりしていたが、コロナや、高齢化で難しくなってきた
- ・町内会から離脱する人も増えている
- ・一人暮らしの人たちも心配

⇒誰でも参加できるサロンの立ち上げの支援や、世話人さんや地域で気になる人を自然に見守っている人たちを中心にした、地域のつながりの「見える化」を提案。

活動内容

- ・2か月に1回、地域内の気になる人を地図上に印し、住民目線で一覧表を作成
- ・普段の「緩やかな見守り」の実施



吉和 地域懇談会の取組み

きっかけ

- ・世帯数の少ない吉和地域では「見守り活動」とまで言わない「気かけ合い」がすでにある
- ・地域のつながりを生活支援コーディネーターとして把握し、地域にあるつながりや資源を可視化する必要がある

⇒集会所ごとの地域座談会の開催

活動内容

- ・小地域単位で地域住民や生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会(2層協議体)メンバー、民生委員が集まり情報共有
 - 地図上に住民同士のつながりを記入
- ・地域の状況を可視化することで、地域住民に日常的にある「見守り活動」が重要であることの気付きを促す